

## 「臨床薬理学」

日本臨床薬理学会 編

自治医科大学学長

高 久 史 磨

今回、日本臨床薬理学会の編集により、「臨床薬理学」が刊行された。本書は臨床薬理学会が初めて学会編集として出版した本格的な臨床薬理学のハンドブックである。

周知のごとく、ソリブジンと5FUとの併用による死亡事件に引き続いて、いわゆる薬害エイズ事件が大きな社会的な問題となり、医薬品の適正な使用法の徹底と医薬品に関する情報の伝達機構の整備の重要性が強く叫ばれるようになっていく。このような世論に対応すべく、厚生省では医薬品安全性確保対策検討委員会(森亘委員長)を設置し、2年以上にわたってこの問題についての検討を行ってきた。この委員会の最終報告書は近いうちに公開されることになっているが、その中で強調されていることの1つが、医学の卒前・卒後教育における臨床薬理学教育の重要性である。また、最近、医薬品開発の国際化に対応した新しいGCPの基準が作られようとしてい

る。

このような最近の動向を考えると今回日本臨床薬理学会がその総力を結集して編集した「臨床薬理学」が医学書院から出版されたことは誠に時宜を得た企画であったと言える。本書の内容は臨床薬理学の概念と定義、臨床薬理学の歴史、臨床試験の倫理、薬物作用のメカニズム、医薬品の開発、臨床薬学動態、薬理作用、薬物動態の個体差、薬物相互作用、薬物有害反応などの基礎的な問題から妊娠婦、新生児、小児、高齢者、腎障害患者、肝障害患者、心不全患者などへの薬物投与計画、患者の服薬コンプライアンス、治療的薬物モニタリングなどの各種状態における薬物投与時の注意に加えて、降圧薬、抗不整脈薬、糖尿病治療薬、向精神薬、抗炎症薬などの主要疾患治療薬の臨床薬理、更に新薬の開発、薬物の乱用・誤用、治験と医事紛争、薬事行政、臨床薬理と健康保険などの問題が各々の専門家によって詳しく

解説されている。このように本書では臨床薬理学に関するあらゆる問題が取り上げられており、まさしく“臨床薬理学のすべて”と言っても良い内容のものになっている。

臨床薬理学は若い学問分野である。そのためもあって臨床薬理学の講座を持っている医学部・医科大学の数は限られており、卒前・卒後の臨床薬理学の教育が多くの医学部・医科大学で十分には行われていないのが現状ではないかと思う。しかし臨床医学教育における臨床薬理学、薬学教育における医療薬学の教育の重要性がわが国において今後ますます強調されるようになることは疑いない事実である。筆者は本書の発行がわが国における臨床薬理学の発展の大きなきっかけとなることを強く期待している。

● B5 頁524 図197 表161 1996  
定価(本体9,200円+税) 円400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)